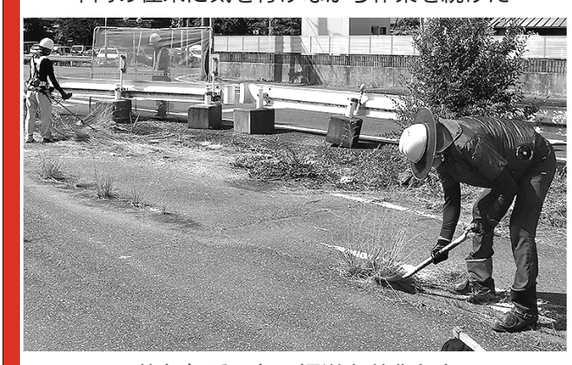
本社近隣道路を清掃

継続して地域に貢献

ボランティアで地域に貢献する参加メンバー

車両の往来に気を付けながら作業を続けた


使われていない旧道も美化した

アジア開発興業

アジア開発興業（印西市、山田輝夫代表取締役社長）は8月29日、本社前道路を中心とした9回目となるボランティア清掃活動を実施した。協力企業と合わせて24人が参加して、地域貢献で汗を流した。同日午後から開いた同社の安全大会に先駆けて実施した。

活動前に山田代表取締役は社員らに、「毎年続けていることで、地域の住民から必要な企業だと理解してもらえるだろう。建設業界のイメージアップにもつないしたい」などと話した。

山田社長

また、「暑さが厳しいが、体調管理で、熱中症には十分注意してほしい。ダンプに草などを積み込む時は、ホコリが飛ぶので、地域住民に迷惑が掛からないように気をつける必要がある」などと参加者に注意を呼びかけた。

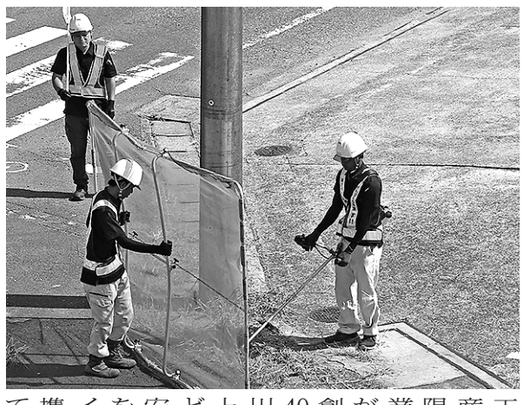
同社は以前、印西市とともに清掃活動をしていた時期もあったが、企業が主体的に地域住民のために、汗を流すことの大切さを社員と分かち合う観点から、社長の呼びかけで協力会社とともに社員自らが活動を続けているという。

活動は、午前9時から正午までの約3時間、地域住民の通行や飛び石などを考慮しながら、国道356号弁天大橋～印西市役所前までの約900mで実施した。

参加者は肩掛式草刈機、ブロワーなどを駆使して、道路両脇に生い茂る雑草を刈り払うとともに、散乱したペットボトル、空き缶などのごみを回収した。

同社の2tダンプ車、パッカー車を活用しながら不燃物は自社に持ち帰り、資源ごみを分けるなど、資源リサイクルにも配慮した。

アジア開発興業は、これまで公共工事、不動産事業、太陽光発電事業などを手がけてきた。創業から約40年間、河川・道路・上下水道など、地域の安心と安全を確保するインフラに携わってきている。

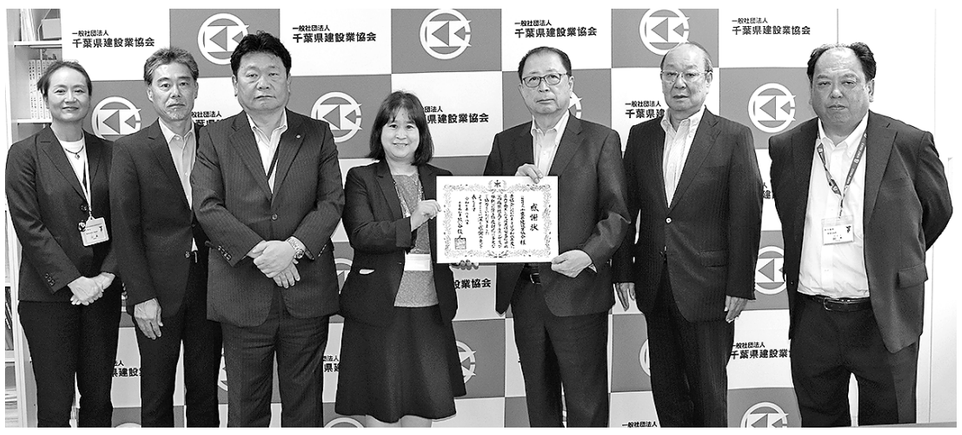

飛び石対策を施して除草した

企業のIT化が進み、建設業でi-Constructionの推進による生産性の向上が求められているとしながらも、「準備や実行決定は、人の技術による」として、必要とされる専門技術について新しい技術を取入れ次世代に継承していくとの方針を打ち出している。

熊谷知事

千建協に感謝状贈呈

家畜伝染病の防疫対応で


今後も建設業界と県が協力して防疫対応に臨むとした

県建設業協会（石井良典会長）は3日、協会本部事務所で、2024年10月から25年3月までに県内で発生した急性悪性家畜伝染病（高原性鳥インフルエンザ・豚熱）の防疫対応で、多大な協力をしたとして、熊谷俊人知事から感謝状が贈呈された。

感謝状贈呈式には、石井会長をはじめ、船越博文副会長、湯浅健司副会長、渡邉慎司副会長、相澤忠利専務理事らが出席。県から県農林水産部の髙橋輝子部長、鈴木清次次長、畜産課の江森美香課長、家畜衛生対策室の藤野晴彦室長らが訪れ「防疫対応に多大なご協力をいただいた」などと、深く感謝の意を表し、髙橋部長が石井会長に感謝状を手渡した。

感謝状を手渡す髙橋部長㊧と石井会長

昨年10月以降、高病原性鳥インフルエンザは、県内で16件発生し、延べ殺処分数は335万6426羽に上った、また、豚熱1件が発生し、延べ5737頭が殺処分された。

県と県建設業協会は15年3月、高病原性鳥インフルエンザや豚熱などの急性悪性家畜伝染病発生時に、迅速、円滑な防疫対応を確保し、畜産業の被害低減を図るため家畜・家きんなどの運搬・埋却作業などについての協定を締結している。

県建設業協会では、香取支部（鈴木定壱支部長）、銚子支部（今井敏春支部長）、八日市場支部（畔蒜義文支部長）の3支部に対しても、それぞれ感謝状が贈呈されている。

経営改善研修会を開催

ハラスメント対策など

ちば測協

県測量設計業協会（ちば測協、横打研会長）は、経営改善研修会を、千葉市内のホテルで2日に開いた。ちば測協や、その関連団体に所属する企業の各経営者らを対象としたもので、会場には56人が集い、職場でのハラスメント対策などに関する研修へ熱心に取り組んでいる。

開会に当たり主催者としてあいさつに立った横打会長は、多忙かつ暑さ厳しい中、多くの参加者が集ってくれたことに感謝の言葉をかけると、昨今の暑さは「自然によるハラスメント」とし、引き続き健康面にも留意して経営に臨んでほしいと呼びかけた。続けて、業界が取り組むべき業務量に適切に応じていくためにも、ハラスメントやメンタルヘルスへの対策といった労務管理に関する内容を盛り込んだ今回の研修内容を紹介している。

横打会長

ちば測協は、県と締結している災害協定にもとづき、台風などの自然災害発生時にはいち早く現場に駆け付け迅速に対応する必要がある。そのため、同研修会などを通じ普段から高い意識を持ち経営の改善に努めることで、地域社会に貢献するだけでなく、各会員企業のさらなる発展につなげていくこととしている。

今回の研修は2部により構成。第1部ではガーディアン社会労務士事務所代表で特定社会保険労務士、元刑事の経歴を持つ恵島美王子氏による「職場のハラスメント対策」を実施。ハラスメント対策の必要性と現状、職場におけるハラスメント、ハラスメントが会社で問われる責任、そしてその防止と対策などについて解説している。

第2部では社会保険労務士法人あい事務所の大野ゆかり氏が講師を務め「メンタルヘルス対策と健康経営」をテーマに、経営者や人事担当者が知っておきたいリスクと対策法について講演を展開。参加者は熱心に耳を傾けている。

56人が2部構成の研修に参加し、さらなる経営改善に努めた

篠田設備工業が浄財

吾妻公園整備の活用

木更津市

功労表彰式に臨む渡辺市長㊧と篠田代表

篠田設備工業（木更津市、篠田賢代表取締役）は、「吾妻公園文化芸術施設整備事業」に活用してほしいと100万円を木更津市に寄付した。市は寄付採納式と功労表彰式を行い、渡辺芳邦市長が篠田代表に表彰状を手渡した。

渡辺市長は、今後も協力を求めるとともに、「浄財を今後の吾妻公園文化芸術施設の整備で、有効に活用する。2028年度中の供用開始を目指し、着実に事業を推進する」とした。

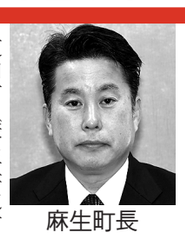
同社は、1977年に木更津市で設立され、管工事をはじめ、土木工事や舗装工事、水道施設工事等を手掛ける。

文化芸術施設は、2026年9月の着工を目指している。吾妻公園の敷地面積約4万㎡にホール、図書館、中央公民館、大屋根広場などの機能を持つ複合施設とし、4階建て地下1階延べ8300㎡程度を想定している。ホールの客席を700席程度の可動式にすることで、ホール以外の利用や、災害時の指定避難所として活用する計画だ。

敷地内には、カフェ、レストランなどを設置し、文化芸術施設と一体的に管理運営を行う。公募設置管理制度（Park-PFI）などの活用も想定している。

排水環境向上へ改良工

芝山町の9月補正予算


麻生町長

芝山町（麻生孝之町長）は4日に、9日開会を予定する町議会定例会に提出する予定の一般会計補正予算案を公表した。新井田地区の排水環境向上に向けた町道の改良工事に5550万円の工事費を計上するとともに、全額を繰越明許費に追加設定する。

同改良にあたっては、町道02-017号線の延長約220mにわたり排水用の側溝を新設するとともに、幅員を約6mから約6・5mに拡幅する。その上で延長約446mの舗装整備も計画している。

土木関連はこれ以外、小規模修繕分にあてる町内全域路線維持補修（維持補修費分）2000万円、それ以外の整備などにあてる町内全域路線維持補修（普通建設事業分）2000万円、山中地区での町道2BL-0178号線の用地測量業務委託385万円なども予算化する。

また拠点整備関連では、山万・光陽JV（代表企業は山万・東京都中央区）が進める川津場地区での田園型居住地創出拠点整備事業に関する補助金3410万円を確保する。同事業は、「農」をテーマとする移住ニーズに対応した拠点を整備するもの。町によると、現在は造成工事などを進めている段階で、2026年度以降で分譲を開始するとともに「まちびらき」する見通し。

このほか、町の都市計画図修正など業務委託3186万円、小池地区道路整備事業物件補償費912万円、芝山小浄水器取付工事108万円、当初の想定よりも規模を拡大することとなった新たな学校給食センターの建設に向けた設計の業務委託料269万円なども計上している。町議会定例会は25日までの会期を予定する。

MAVERICK
建築土木
現場警備
㈱マーベリック
（千葉県警備業協会員）
千葉ガードセンター
TEL. 043-264-1884

とび工の不足続く

7月　建設労働需給

国交省

国土交通省は、7月の建設労働需給調査の結果をまとめた。それによると、全国の8職種（土木型わく工、建築型わく工、左官、とび工、土木鉄筋工、建築鉄筋工、電工、配管工）の平均過不足率は1・6%の不足だった。6月は1・1%の不足で、不足幅は0・5ポイント拡大した。前年同月と比較すると0・4ポイント不足幅が縮小している。とび工は6月の3・6%の不足から3・7%にやや拡大している。

不足率は、大きい順にとび工3・7%、土木型わく工2・7%、左官、土木鉄筋工1・7%、電工、配管工1・2%、建築鉄筋工マイナス0・8%、建築型わく工マイナス1・4%となった。

今後の労働者確保に関する見通しは、9月は「困難」と「やや困難」の合計が28・1%で対前年同月4・1ポイントの増加、「やや容易」と「容易」の合計は5・3%で、同0・8ポイント増加した。

10月の見通しは、「困難」が23・4%で、同4・2ポイントの増加、「容易」は9・0%で同2・3ポイン増加している。

手持現場の状況は、残業・休日作業を実施している強化現場が、全手持現場数の2・6%で、6月と比べ0・1ポイント増加、対前年同月比では1・1ポイントの減少となった。

強化理由は、「前工程の工事遅延」（31%）、「昼間時間帯時間の制約」（21%）、「無理な受注」（10%）、「天候不順」（8%）、の順だった。

地域別に過不足率を前年同月と比較すると、九州が2・4ポイントの増で、全国で最も増加幅が大きくなっている一方、東北が5・8ポイントの減で、全国で最も減少幅が大きくなっている。

今回の調査では1309店社、手持ち現場6819カ所から回答を得た。

ICT施工システム（マシンコントロール/マシンガイダンス）
SITECH　Trimble Authorized Dealer
作業確認が容易な大画面モニターを搭載し、的確かつスムーズな施工をサポート！
従来のような丁張り作業や検測作業が不要（最小限）で、作業時間の短縮化によって最大40%の生産性向上（当社調べ）が可能です。
マシンコントロール（MC）
施工目標面に対し、半自動でショベルを制御。モニターの情報を見ながらの作業に加え、必要な操作を機械がサポート。掘り過ぎを気にせず、スピーディかつ効率よく整地作業が行えます。
マシンガイダンスシステム（MG）
モニターに施工目標面とバケット先端位置を表示して、オペレータに必要な操作をガイダンス。定められた深さまでの掘削や、一定角度の法面整形作業などが安心かつ効率的に行えます。
■ 3DMCシステム構成の例（トリンブル社製システム）
SH135X
SH235X
トータルステーション付保有機械

ブルドーザ	グレーダー	切削機	バックホウ
D21P	MG230Ⅲ(3.1m)	W210	320E(0.7)
D3K	12M3(4.3m)		

D3K　D21　MG230Ⅲ　12M3（4.3m）
HA90C
9.0m幅舗装作業時（最大舗装幅）
写真はオプション装着車
ICT トータルステーション導入実績 H.25.6
生産性向上　常に出来高を確認しながら作業が出来るため、施工時間が短縮
施工品質向上　常に測定を行いながら施工するため、施工品質が向上
コスト削減　丁張と検測作業が不要になるため、人件費の削減
安全性向上　稼働中の機械周辺に検測作業員が立ち入る必要がないため接触事故防止、安全性向上
東和道路株式会社
ISO9001 ISO14001 ISO45001 認証取得
千葉市若葉区高品町 230-1　TEL 043-233-2271　FAX043-233-1194
http://www.touwadouro.co.jp/　touwadouro@mtf.biglobe.ne.jp